

吾妻溪谷

やんば
八ッ場ダム

2005. 10 No. 13

新聞の社説には載るけれど……

利根川流域脱ダム宣言



選挙期間中、与党が繰り返した

「改革を止めるな」というキャッチフレーズを聞くたびに、
八ッ場ダムはどうなるのだろうと思いました。

「改革」は痛みを伴います。

具体的なテーマをどのように解決するのか、
私たちの生活がそれによってどう影響されるのか、

政府は説明責任を果たしていません。

巨大与党の政権下、八ッ場ダム事業はまるで
艦長のいない戦艦大和のように迷走しています。

八ッ場ダムを考える会

首都圏のダム問題を考える市民と議員の会

1
現地の方から

下流の皆さんへメッセージをいただきました。掲載します

【特別寄稿】

■水没予定地住民より首都圏の皆さんへ■

今年は戦後60年、いろいろの企画が行われている。八ッ場ダム計画も、今年で53年目を迎えた。

最近、関東では、大きな台風や水害、渇水騒ぎもなく、治水、利水ともに安定しているようだ。一時は群馬県の最重要課題として紙面に取り上げられていた八ッ場ダムも、今では世間から忘れられようとしている。

昭和27年から始まったダム闘争は、50年の歳月を経た平成13年6月の補償基準交渉妥結調印により、ようやく終焉を迎えたかに思われた。当時、住民は、長いダム問題から開放され、肩の荷が下りたように一様に安堵したものだ。しかし、ホッとしたのも束の間、現地再建計画に取り組まなければならなかった。

国交省は以前から水没者に、現地に残留するか否かのアンケート調査を、数回にわたって実施してきた。県はこれを受けて、移転希望者に先行投資という形で、補償金を肩代わりする制度を作った。2年間という期限つき、利息まで県が負担するという制度だった。この制度が引き金になり、それでは私もと、町外へ出て行く人が多くなったのは事実だ。

おもえば昭和55年、県が独自の生活再建案を作成して以来、6年がかりの見直し、修正、さらに32項目の要望事項を追加して、これらが本当に受け入れられ、実行が約束されるならばと、地元でダム建設が容認された経緯がある。

その当時の住民の心情は、「代替地は補償金の範囲内で安く買える。今後は造成も急速に進み、まもなく新しい土地に引っ越しできる」と、誰もがその日を望み、期待をもっていた。補償基準の提示、交渉、妥結、そして調印・・・一般的に考えて、これですべての作業が終わったものと思ったのだ。

しかし、その後、国交省が提示した代替地の分譲価額は予想以上に高かった。値下げを要望したが、僅かの金額を下げるとの返事に1年も待たされた。その後も、再度の値下げ交渉を行ったが、国交省の回答はゼロ回答であった。

特に川原湯地区の場合は、温泉街ゾーンの価格が、他の地価の3割増しであることを不服とし、単独の再交渉に踏み切った。だが国交省の回答文は、

「少しでもご希望に沿った見直しができないか検討させていただきましたが、国といたしましては残念ながら、基本的にこれ以上の見直しはできません。ご不満の点多々あるかと思いますが、何卒、ご理解いただきますようお願い申し上げます」

というものだった。

川原湯では村総会を開き、意見の集約を図ったが、再度のゼロ回答に会議は紛糾し、しかたなく無記名投票を行い、票差で基準額を受け入れることが決まった。

こうした経緯の中で、国の姿勢は、「ダムを造らせて」から、「ダムを造るんだ」というものになっていった。ここを墳墓の地と決めた人々も、国の姿勢に加え、分譲に伴う複雑な仕組み、事業予算の制約などによる用地買収の遅れ、さらに未整備の代替地造成など、この土地に見切りをつけ、人知れず最後の決断をすることになった。

「丈夫なうちに・・・動けるうちに・・・」

「ここにいても、先行き見込みがない・・・」

心の中で思っていることを、誰に話しようもなく、ただ涙をのんで住み慣れた我が家を捨て、一人、また一人と、親しい友人、隣近所の人たちに別れを告げ、故郷をあとにして行くのだ。

水没者はどこまでいっても犠牲者なのだ。これを癒してくれるものは何もない。

国策の名の下に、下流受益都県の人々のため、という名目で、故郷を奪われ、家をなくし、人の財産や名誉、さらには人生までも台無しにしてきたダム行政、水行政を根本的に見直すことを、この際、強く望みたい。



.....

メッセージをお読みになってのご意見、ご感想を、ハッ場ダムを考える会へお寄せください。地元の方も、下流の皆さんからのメッセージを希望しています。

*事務局連絡先：



■ 現地は今... その4 ■

—守られなかった約束—

2005. 10. 20

▼ 13年前の文書 ▼

13年前、長野原町では国交省と群馬県に対して、代替地を早急に用意するよう要望書を提出している。
re 当時は建設省でして(問題意識はごめんがまし)

* 1992年2月24日

《水没予定地住民の生活再建について、長野原町から建設省と群馬県への要望》

「国・県道、鉄道、代替地、学校など基幹施設の早期着工をはかり、特に代替地造成にあたっては、水道、下水道、消防施設など社会生活環境施設と農業用水についても一体整備をはかり補償基準妥結時には分譲できるよう対処すること」

返答の日付は、わずか4日後 —

* 1992年2月28日

《上記要望に関する建設省、群馬県の回答》

「生活再建対策上必要とされる基幹施設については、早期に着工します。

代替地造成にあたっては、関連施設の一体整備を含め補償基準妥結時には、移転が可能となるよう実施します」

この年は、水没予定地がダム計画を実質的に受け入れた節目の年にあたる。1992年7月14日、地元と群馬県、建設省は八ッ場ダム事業の基本協定書、用地補償調査の協定書を締結している。建設省には、地元の歓心を買う必要があったといえるだろう。

▼ 代替地交渉の終了 ▼

代替地は未だに完成していないが、さる9月7日、代替地分譲基準の調印式が長野原町で行われた。計画より53年をへて、国は漸く水没地区との交渉を終えたことになる。

しかし現地では、住民の生活再建の道筋が見えず、集落の存続さえ危ぶまれる深刻な事態に立ち至っている。

~~~~~ (毎日新聞群馬版9月8日)

5地区の中で最も分譲基準受け入れが難航した川原湯地区の豊田治明委員長は式後、「本当は式に来るつもりはなかった。(国交省側から) 請われて仕方なく来た。みんなきれいごとを言っているが温泉地が再建なんてできない。昔に帰ってゼロから数十年とやるしかない」と話した。~~~~~

### ▼ 止まらぬ住民流出 ▼

農村地帯の川原畑は、代替地価格が発表された平成15年末以降、流出が一気に進ん

(第三種郵便物認可)

2005.10.1  
読者新聞  
群馬版

# 「ハッ場」代替地造成急げ

## 県が一部先行取得

### 補正予算案 9億円計上 国交省予算減否

長野原町のハッ場ダム建設計画で、県は水没住民の移転代替地の一部を今年度、事業主体の国土交通省に代わって先行取得の方針を決めた。取得費用として、9月定例県議会に提出した補正予算案に約9億1000万円が盛り込まれた。同省の今年度予算減額に伴う異例の措置で、代替地造成を急ぎ、事業の遅れなどから加速する住民の地区外転出を食い止める狙いがある。取得用地は来年度以降、同省に売却する。

だが、ハッ場に関する国の令に同省が要求し、20億0億円に上る分には代替地の一部が含まれ、は来年度までの取得が困難と、県に用地の要請していた。県も、水没地区の「生活再建」を図るため、10月10日新法(計22.7%)

だ。借地人が多い川原湯では、十分な補償金が期待できず、地区外転出での生活再建にも不安を抱く人が多い。だが最近、転出という苦渋の決断をする人も増えている。

現在、川原湯地区は人口257人、85世帯、川原畑地区は8人、27世帯(9月末、長野原町役場)。実際の数字は、住民票届出状況によるこの数字をさらに下回るといふ。ちなみに補償基準調印前の平成13年3月末、川原湯は人口504人、176世帯、川原畑は人口247人、94世帯であった。

群馬県は9月県議会で、ハッ場ダム代替地の取得費用として、補正予算案に9億1453億円を盛り込んだ。国交省の今年度のダム事業予算が300億円から280億円に削られたため、県が肩代わりして先行取得をするという。代替地の分譲が予定通り、今年度から始まるのなら、土地買収はとっくに終わっていないはずだ。

### ▼ アンケート ▼

国交省は8月から、水没予定地の住民を対象に、代替地に関する意向調査を始めた。このアンケートで住民の希望を把握し、その結果を代替地の造成計画に反映させるといふ。調査の結果は10月上旬をメドに住民に知らされることになっていたが、10月20日現在、未だに公表されていない。いずれにしても、国は「造成計画の大幅縮小は避けられそうもない」とアナウンスすることになると見られる。

代替地への移転は今年度から始まる予定だが、造成状況からみて遅れるのは必至。ハッ場ダムの場合、計画通りに物事が進まなくとも、誰も驚きはしない。(清沢)

「我が国では、経済成長、所得倍増、地域発展等がうたい文句になり、意味のない公共事業が対象区域の住民を無視し、数多く実施されてきた。地元住民の意思や生活の必要性はどこに考慮されたのであろうか。地元住民のライフスタイルを本当に捉えて実施された公共事業があったのだろうか。住民及び国民は、その公共事業の実施に伴う変化について、どれ位知らされていたのか。これは、政治的、経済的、社会的問題であり、総体として日本人の文化的問題なのである。ダム建設を含めた大型公共事業は環境問題ばかり話題になることが多いが、文化的問題も重要で、「環境問題は文化問題」という基本的で長期的な認識をもたないことには、生活再建もうまくはいかないし、我が国の公共事業も変わらないであろう。」(矢部俊介氏・土木技術者)

# 吾妻川のヒ素問題

監修：嶋津暉之

## ■ 温泉水に含まれるヒ素 ■

ハッ場ダム予定地の上流には、温泉、旧鉱山跡地など、重金属類を多量に含む汚染源が散在しています。中でも、草津温泉の源泉にヒ素が高濃度で含まれていることは、飲用水の水質を考える上で、見過ごすことのできない問題です。

| 泉源    | pH  | ヒ素濃度<br>mg/L | 最大湧出量<br>L/min | ヒ素量<br>mg/min |
|-------|-----|--------------|----------------|---------------|
| 万代鉱源泉 | 2.1 | 9.7          | 6,200          | 60,140        |
| 湯畑ほか  | 1.7 | 0.07         | 30,000         | 2,100         |
| 合計    |     |              | 36,200         | 62,240        |

上の表は、草津温泉の代表的な源泉である、湯畑と万代鉱源泉のヒ素濃度を示しています。ヒ素などの重金属類は、温泉水には元々含まれているものです。ヒ素は経口摂取すれば問題ですが、温泉療養には逆にプラスに評価された時代もあり、温泉愛好家の間では、ヒ素が含まれる温泉の方が好ましいという意見さえあります。ヒ素の排出基準が厳しく規制されるようになった現在でも、慣行的に利用されている旅館業の排水には、基準は適用されていません。

## ■ ヒ素のゆくえ ■

草津温泉源からは、年間およそ 24 トン（湯畑、万代鉱源泉の年間平均毎分湧出量 27,000L に基づき計算）のヒ素が排出されますが、その大半は、中和処理で加える石灰などと一緒に水の中から沈殿し、中和生成物の中に取り込まれ、下流の品木ダムに堆積します。中和生成物は浚渫・脱水して、品木ダム周辺の産業廃棄物最終処分場である A 土捨て場（終了）、B 土捨て場に処分されています。B 土捨て場は平成 18 年 3 月で満杯になるため、現在、C 土捨て場を建設中です。1987 年から浚渫作業が始まり、一日およそ 60 m<sup>3</sup>が浚渫されてきました。A、B 土捨て場の累積処分量は 22 万 m<sup>3</sup>になります。

以下の表は、国土交通省が公表した中和生成物のヒ素含有量です。

①湿式分析の含有量試験

(単位 mg/kg)

②含有試験

(単位 mg/kg)

|         |          | 砒素     |
|---------|----------|--------|
| 2005年2月 | 品木ダムの底泥1 | 5,600  |
| 2005年2月 | 品木ダムの底泥2 | 4,900  |
| 2005年2月 | 品木ダムの底泥3 | 1,100  |
| 2005年2月 | 品木ダムの底泥4 | 3,100  |
| 2005年2月 | 脱水ケーキ    | 11,000 |

|            |       | 砒素  |
|------------|-------|-----|
| 2001年11月7日 | 脱水機場  | 856 |
| 2001年11月7日 | B土捨て場 | 491 |
| 2002年10月8日 | 脱水機場  | 671 |
| 2002年10月8日 | B土捨て場 | 521 |

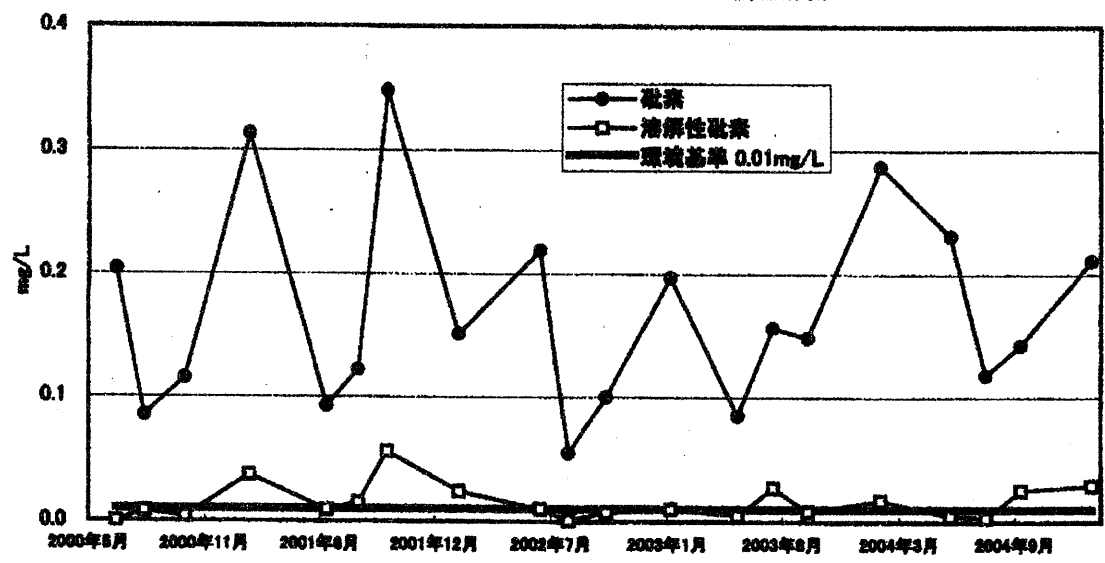
〔注〕湿式分析の含有量試験：全含有量を計測する試験

〔注〕硝酸と硫酸を用いて抽出する含有量試験であるが、左記の試験方法との違いは不明

# 吾妻川のヒ素問題

中和処理だけではヒ素を十分に除去することはできません。品木ダムの放流水は、環境基準 (0.01mg/l) の10~30倍のヒ素濃度となっています。

品木ダムの放流水のヒ素濃度(国土交通省の調査結果)



## ■ ハッ場ダムとヒ素問題 ■

現在、品木ダムの放流水は、ハッ場ダム予定地の upstream で東京電力によって取水され、導水管を流れて水力発電に利用されています。群馬県の調査によれば、吾妻川が利根川に合流する直前の吾妻橋地点では、ヒ素濃度は環境基準をクリアしています。流域の沢水によって希釈され、ヒ素が鉄化合物とともに次第に沈殿したためと考えられます。

吾妻川の水は利根川本流と合流し、さらにいくつもの大きな支流を集めて、首都圏へと流れてゆきます。現在でも、この利根川の水は下流都県的生活用水として利用されており、健康被害が目に見える形で発覚したことはありません。

しかし、水質の良い地下水とくらべ、遠くの水源地から運ばれてきた河川水は、高度な浄水処理をしなければ飲用に耐えません。ハッ場ダムが完成すれば、都市用水の河川水への依存率は、ますます高まることになります。ダム建設による水源開発を中心とした水行政が、将来世代にどのような影響を及ぼすのか—安全だという保証はどこにもありません。

# ◀ 私にとってハッ場ダムとは ▶

富永 靖徳 (埼玉県朝霞市在住)

## はじめに

インターネットのGoogleで「ダム 凍結」のキーワード検索をしてみたら、以下のURLに次のような文が掲載されていました。

<http://www.pref.gunma.jp/chiji/speak/damu.htm>

\*\*\*\*\*

XXダム建設事業については、一 略 一

財政面から考えますと本体工事に着手することにより今後数年間で二百数十億に及ぶ大きな投資を必要とすることになります。現在の県の厳しい財政状況を考慮すれば、これはなかなか難しい事でありませう。

また事業の緊急度や県民の事業に対する理解度という点において、カスリーン台風以来大きな被害が出てないことや、ここ数年、水道需要が伸びていないこともあって、治水・利水の両面において、さらに慎重な対応が必要な状況にあると考えております。

これらを総合的に勘案いたしますと、現時点におきましては、XXダムについては、来年度より当分の間、本体工事等残工事への着手を見合わせることにし、一以下略一（「平成15年12月3日（群馬）県議会本会議における小林義康議員（自由民主党）の一般質問に対する小寺知事の答弁」）

\*\*\*\*\*

私は、この答弁を見て啞然としました。XXダムとは群馬県営倉淵ダムのことです。この答弁の中で「倉淵ダム」を「ハッ場ダム」に置き換えて、財政上の数字をちょっと変更するだけで、なんと、ハッ場ダムにもそのまま通用するではありませんか。つまり、この答弁は、はからずも、ハッ場ダム事業が、現状の財政・治水・利水を全く考慮していない事業であることを自ら認めているようなものです。

## ハッ場ダム問題との出会い

私が「ハッ場ダム」事業のことを知ったのは10数年前です。国道145号線を通った時に、まもなく川原湯温泉が、「まるごと」ダムに沈んでしまうと聞いて、びっくりしました。現地の川原湯温泉まで出かけ、吾妻溪谷も歩き、どうやらほんとうの話だとわかり、二度びっくりしました。その後、国道145号線を通るたびに、いつも割り切れない思いをしていました。こんなおり、国交省から工事費値上げの話が出た直後に、埼玉で開催された嶋津さんの講演に出会いました。嶋津さんの話は明快でした。治水・利水の両面で、もはや不用の事業であること、明らかに不用であるだけでなく、むしろ有害であることを認識しました。すぐに群馬の考える会とコンタクトをとり状況を教わりました。近隣の仲間と相談し、川原湯温泉と周辺の状況の見学会が実現しました。群馬の考える会の方々には全面的なご協力をいただきました。



## ダムは治水と利水に役立つのか？

50年以上前、私が小学生の頃、ダムの目的として教わったのは、水力発電と川の水量の調整だったと記憶しています。曰く、大雨の時は水をせき止めて下流の洪水を防ぎ、干ばつの折りには貯めた水を放流して下流の水量を一定にし、しかも、この水で発電が出来るという、いい事づくめでした。しかし、現実には多くのダムは、干ばつになると放流を制限して下流の水量を減らし、大雨になるとダムの保護という名目で大量の水を放流するというのが実態です。要するに、ダムは、平時にはそれなりの水量の調整が出来ても、ほんとうに肝心な折りには役立たずか、逆の事しか出来ないのだと知りました。特に、ハッ場ダムでは、この最小限の治水・利水の論理すら破綻しているのは、冒頭の群馬県知事の答弁からも明白です。

本当に水の問題を解決するのであれば、1) 上流の山々の樹木の生態系を管理し、常に生き生きとした緑の涵養林を維持する事、特に、2) 山を崩してゴルフ場を造成するような愚挙を絶対にしない事、3) 足下の河川の改修を適正に行う事、そして、なによりも、4) 下流での水の消費そのものを適正規模に抑える方策を真剣に考える事、だと思えます。広葉樹林の保水力と水の調整力のすごさは、ダムの比ではないと思えます。ダムという見せかけの調整力に頼るのではなく、上流の山々の樹木の調整力の方に合わせて、下流の水の利用計画を策定するのが本筋です。地下水や雨水の利用も視野に入れば完璧です。

## 地元の補償を考える

ハッ場ダムについては、本体工事だけは、絶対に凍結・中止にしなければなりません。どうしても地元のための公共事業としてお金を使う必要があるのなら、それは生活道路や生活関連事業のみに限定するべきだと思います。公共事業の大義名分として、ダムと抱き合わせにするから問題が複雑になるのです。また、状況が変わってダムの建設を中止する時に、必ず問題になるのは補償金の問題です。すでに払われてしまった補償金や、これから支払われるべき補償金は、これまで何十年にもわたる地元への迷惑料と考えれば、数年前に銀行に投入された税金に比べれば、数段、趣旨もわかりやすいし、決して批判される事ではないと思えます。むしろ、補償金だけでなく、地元の生活再建を法的裏付けをもって、最優先にするべきだと思います。

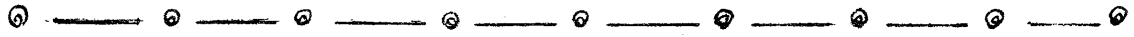


## おわりに

一度始めると引き返せないのは、お役人の無謬神経症なのでしょうか。そろそろ、国交省のお役人も、70年も前の米国のテネシー溪谷開発公社(TVA)によるニューディーラー政策の亡霊から脱却し、新しい時代に適合するビジョンを持ってほしいものです。

総会記念講演会（11/23）講師の川村晃生さんは、慶応大学で環境をテーマに、ユニークな授業を展開しておられる文学部の先生です。

先頃、八ッ場ダムをテーマに90分の講義をされたとのこと。その際、学生さんたちが書いたリアクションペーパーの一部を掲載します。



\* 若山牧水の生き方に興味共感を抱くことから、今回の講義は始まった。そんな彼が、どうしても訪れたいと予定を変更してまで再度訪れた吾妻溪谷、その美しさは、彼が数時間で22首もの歌を詠みあげたところからも強く感じられた。そのように美しい川に、わざわざ中和作業を行ってまでダムを造ろうというのは、国のエゴイズムだと感じた。

\* 東京都の水が十分足りている今、若山牧水も愛した素晴らしい景観を壊し、村民の方達を住み慣れた村から追い払い、なおかつ巨額の税金を無駄に投入して、国は何をしたいのでしょうか。このダム建設によって利益を得るのは、一体誰なのでしょう。

\* スライドで見た国土交通省のチラシは、もう理解不可能で言葉も出ないようなものだった。人間は高度な思考能力を兼ね備えた生きものなのかもしれないが、同時に、高度な間違いも犯しえる可能性をもった生きものだという事を、今日の授業で改めて気づかされた。

\* ダム建設によって地方の土木事業者の仕事を与えるという公共事業の手法が批判されるようになってから随分たつというのに、未だにこのような計画があることに驚いた。政府は改革、改革と聞こえのよい言葉で国民を扇動しているが、実際にはこうしたムダを排除できていないことに改めて落胆した。

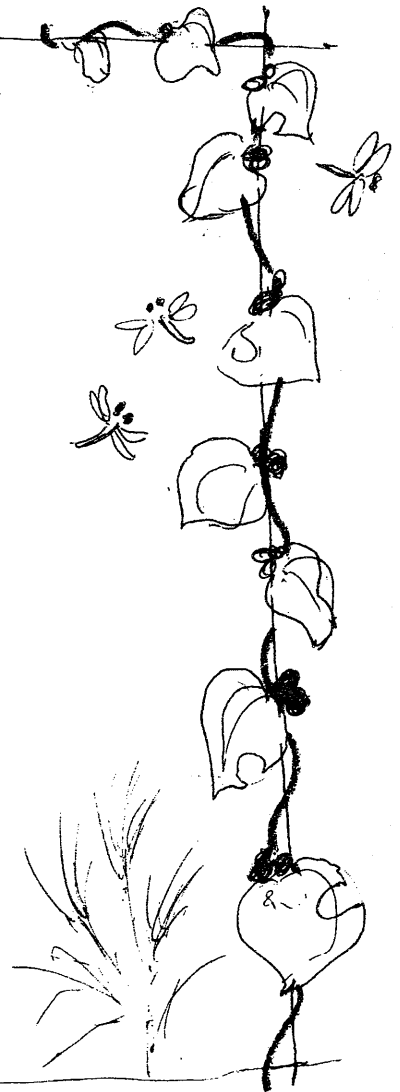
\* 木々が生い茂った山の保水量の方が、ダムのそれよりも多いということ、初めて知りました。目先の容易さだけを理由に、高額なダム建設が成し遂げられることが悲しいです。私達の税金がそこに投じられるということも、悲しいです。この建設を決断した方々の想像力のなさが、何より悲しく哀れです。

\* 先生のお話を聞き、写真を眺めていると、いかにも八ッ場ダム計画が破綻していることがよくわかりました。温泉街をそっくり別の場所に移すなど、もってのほかだと思います。それこそ、温泉をテーマパークか何かと同じように考えているのではないかと疑問に思いました。

\* 今日はダムに関しての様々な問題を知った。東京都では水が余っているという現状があり（初めて知りました!!）、全く無駄使いであると思う。ダムよりも森林の方が水をためられるのだったら、どうしてもっと早くから木を植えなかったのだろうか・・・？

大学生はこう思う  
慶応大学の感想文

- \* 住民の反対が20年も続くなんで、はっきり言って異常なのに、それでも粘り勝ちのようにして、何が何でも造ろうという姿勢が不思議だった。ダムを造るのはおそらく生活のためであるはずだが、川原湯温泉の人々にとっては本当に翻弄されたもいところで、生活が立たなくなる見通しも大きく、何のためのダムなのだろうか。
- \* 今までは、水不足に対する備えのためのものであると思っていたけれど、実はダムの役割はそれほど大きくないことを知って、混乱してしまった。広葉樹林を中心とした保水力豊かな森林の整備の方が、ダム建設よりはるかに有効であるならば、時間がかかっても森林を豊かにして、長野県の田中知事の言うように、「緑のダム構想」を実現すればいいのではないかと思う。
- \* 所詮、莫大なお金を流用して、必要もない、むしろ造ることで私達の害になるダムを造ろうと働きかけている国の力は、カネを使い回すことしか知らない、悲しく弱い権力にすぎない。カネではなく、国民の真の幸せ、美しい自然を約束することこそが、本当の国を守る、国の上に立つ力なのではないか。



川原湯温泉

河野千絵（長野県佐久市在住）

山峡の湯脈千年絶えざるをほんとうに潰さねばならぬのか

これまでに喪われたる故郷の数をかぞえる、魂のごと

人さまの悲しみに便乗する心なきかなきかと幾たびも聞え

住民の半数が去りし現在も反対の声挙がりやまぬに

語らねど吾のすべてを見し人と気づかされたり向き合いしうち

帰り来し吾の日常に兆したる起ちあがる心決して去るなよ

【新年度が始まります】

11月23日、前橋で総会が開かれます。ハッ場ダムを考える会では、総会を会計年度の区切りとしています。お手数ですが、会へのカンパ、来年度の会費は、同封の振込用紙の通信欄に、会費、カンパの別をご記入の上、お振込み下さい。なお、事務作業を軽減するため、振込用紙の受領証をもって会の受領書に代えさせていただいております。受領の通知をご希望の方は、通信欄にその旨お書き添え下さい。



【各地の連絡先】

★ハッ場ダムを考える会



★首都圏のダム問題を考える市民と議員の会



★ハッ場ダムをストップさせる市民連絡会



★ハッ場ダムをストップさせる東京の会

★ハッ場ダムをストップさせる千葉の会

★ハッ場ダムをストップさせる埼玉の会

★ハッ場ダムをストップさせる群馬の会

★ハッ場ダムをストップさせる茨城の会

★ムダなダムをストップさせる栃木の会

★ハッ場ダムを考える千葉の会

★ハッ場ダムを考える市民の会おた



【訴訟スケジュール】

|    |           |         |              |
|----|-----------|---------|--------------|
| 千葉 | 11月18日(金) | 午前11時   | 千葉地裁         |
| 栃木 | 11月24日(木) | 午前10時   | 宇都宮地裁        |
| 埼玉 | 11月30日(水) | 午前11時   | さいたま地裁       |
| 東京 | 12月12日(月) | 午前11時   | 東京地裁(弁論準備期日) |
| 茨城 | 12月13日(火) | 午後1時30分 | 水戸地裁         |
| 群馬 | 12月16日(金) | 午後1時30分 | 前橋地裁         |

吾妻溪谷が美しく色づく季節、今年も好評の現地イベントを開催します。すでに沢山の方からお申し込みがありました。予約がいっぱいになり次第、締め切ります。ご希望の方は、宿泊、バス、お弁当の都合がありますので、事務局 (TEL/080-3278-9005) までお早めにご連絡を！

## 紅葉・吾妻溪谷エツアー

★水没予定地の野道を歩く★川原湯温泉を堪能する★自然の中でミニコンサートを楽しむ  
★しっかりダム問題を学ぶ・・・と盛り沢山なプログラム。希望に応じて一部参加もOKです。

11/5 (土) □ ～秋の半日ハイキング～ □

吾妻溪谷、水没予定地の里山など、2コースぐらいに分れてハイキング

12:30 川原湯温泉駅集合 (10時上野発、12:19着の特急草津3号あり)

★参加費 (資料代など) 300円

11/6 (日) □ ～ダム予定地見学とミニコンサート～ □

バスで全行程を回ります。八ッ場ダム問題の第一人者、嶋津暉之さんの解説

(バスは高崎から温泉駅に来ます。高崎駅東口交番前からバス利用も可。9時出発。要予約)

10:30 川原湯温泉駅からバス出発

午前中はダム予定地周辺を見学

12:00 梅林で昼食

12:30 ミニコンサート ♪ギターとツインボーカルのガーネット♪

13:30 バス出発、草津中和工場、品木ダム、長野原取水堰

16:15 長野原・草津口駅着 (16:32発、19:04上野着の草津8号あり)

バスは川原湯温泉駅を経由し、高崎まで行きます。途中下車可。高崎駅18時ごろ到着予定

★参加費 4500円 (お弁当&コンサート1500円、バス代大人3000円、  
中学生以下 2500円)

### ～推薦図書～

『日本文学から「自然」を読む』 川村晃生著 勉誠出版

環境人文学という新しい学問分野を切り開きつつある著者による、ユニークな日本文学論。川べりの柳、萩の原、松林— 古来、日本人が和歌に詠み、随筆に書きとめた自然素材は、日本人と自然との関わりを解き明かすキーワードであるとの視点から、民俗学、植物学など様々な学問分野の成果を駆使した知の探求は、実にスリリング。和歌研究にいそしんだ文学者が、なぜ、一見まったく違う分野の環境問題に真摯に向き合うことになったのか？ この本を読むと、それがむしろ自然な思索の軌跡であったのだと納得させられます。 \*10/30の八ッ場ダムを考える会総会記念講演の講師です。

■ 総会・記念講演会のお知らせ ■

ハッ場ダムを考える会

- 日時：11月23日（勤労感謝の日）
- 場所：群馬県女性会館（前橋市、群馬県庁北隣）  
総会：午後1時半～2時
- 記念講演：午後2時10分～3時10分

「吾妻溪谷はたけいもか  
——作家が語る景観」

講師 川村晃生さん（慶応大学文学部教授）

- ハッ場ダム問題の現状レポート：午後3時20分～4時半予定
- ① ヒ素を含む水質問題・・・嶋津暉之さん（顧問）
- ② 水没予定地住民の生活再建・・・伊藤祐司さん（群馬県議）ほか

ハッ場ダムは現在の計画では、2010年完成の予定です。  
けれども本体工事は、まだまだ先です。  
次の世代の“いのち”のために、ハッ場ダム計画を見直しましょう。

会員年中募集中  
年会費（秋の総会から次の総会まで）／個人会費 2000 円、団体会費 3000 円  
《カンパしてもいいな、という方は・・・》  
郵便振替口座番号 00550-2-32681

編集：ハッ場ダムを考える会